



# 和's YAMATO

(わづやまと)

2024  
秋号



「森の実」栗の木ヒルリビタキ 須藤和之 画

- 写真で楽しむ美しい自然  
『赤城小沼から望む富士山』
- 嬌恋村ウダラ沢小水力発電事業を実施  
『郷土史跡めぐり』
- 群馬の芸術家 竹内美絵  
『伊勢塚古墳（群馬県藤岡市）』
- 前橋の文学碑  
『源氏物語と藤原氏』

■ 源氏物語の執筆と藤原道長の榮華



写真で楽しむ 美しい自然  
『赤城小沼から望む富士山』 2022年10月撮影

《撮影》藤重朋紀氏

略歴 1952 群馬県利根郡みなかみ町生まれ 2001 フリー  
1971 群馬県渋川高等学校卒業 2010 写真集「上州路・一本桜」  
1972 東京写真専門学校中退 2011 写真集「上州路」  
1979 コマーシャルフォトスタジオ創美社



表紙の絵  
「森の実」栗の木ヒルリビタキ/F6号

## 須藤 和之 プロフィール

Kazuyuki Sutoh Profile

1981年 群馬県前橋市生まれ  
2005年 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業 2007年 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻 保存修復日本画修了 2010年 同大学大学院 保存修復日本画博士課程修了 博士号取得 博士審査展 お仏壇のはせがわ賞特別賞 個展(画廊翠巒)(同2011~24) 2011年 中央電機商會カレンダー原画(2011~24) 2013年 アーツ前橋開館記念展出品、群馬銀行創立80周年記念収蔵作品制作 2014年 個展(日本橋三越本店)(同2017,20,23) 2017年 群馬県展 県知事賞 2016年 個展(株式会社ヤマト)  
2019年 高崎市タワー美術館トップランナーⅢ出品 2020年 上毛芸術文化賞受賞 2022年 個展(株式会社ヤマト)  
2023年 群馬銀行創立90周年記念 収蔵作品制作 現在 日本美術院院友 群馬県美術会会員 慶應義塾大学非常勤講師(2013~24)  
OFFICIAL WEBSITE:SUTOOO.NET URL <http://sutooo.net/>

和's YAMATO わづやまと

2024年秋号(第62号)

《和's YAMATOの由来》ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。

和'sYAMATO夏号／2024年(令和6年)10月発行

発行:株式会社ヤマト広報室 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

建設プロダクト  ヤマト

【発行】株式会社ヤマト 〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL:027-290-1800 (代) FAX:027-290-1896

支 店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森  
附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター、プロダクトセンター  
ヤマトホームページ <https://www.yamato-se.co.jp/>



# 源氏物語と藤原氏

## 源氏物語の執筆と藤原道長の栄華

### 紫式部の

#### 「源氏物語」執筆

長保3年(1001)に紫式部の夫・藤原宣孝が死去した。約3年の結婚生活であつたという。翌年に式部は源氏物語の執筆を開始したとされ、執筆の動機は藤原道長に勧められたためと推察される。当時の紙は貴重で高価で入手困難なため、有力者の支援が無ければ長編の物語を書くことは難しい時代だった。式部がどのような構想を持って執筆したかについては定かではないが、源氏物語の「第二十五帖・蛍」の中で、光源氏に物語論を語らせていく。「誰それの身の上として、ありのままに書き記すことはないとしても、良いことであれ悪いことであれ、この世を生きている人のあり様の、見ているだけでは物足りないこと、聞いてそのまま聞き流しにできないことを後世にも伝えさせたい!」。この一節は、式部の物語観を現わしているとす

る説がある。

当時の物語的な書物は、漢文で記された官製の歴史書があり、かな文字は和歌や手紙などで使用されていた。式部は、物語をかなで書き、事実を列挙した歴史の物語では無く、虚構を織り交ぜながら、世の中や人間の生々しい姿を描き出したことにより、人々を惹きつける作品に結実したと考えられる。

長保2年(1000)、藤原道長の娘・彰子が一条天皇の中宮となつたが、一条天皇は先に皇后となつていた定子を寵愛していた。彰子が中宮となつたのは、道長の政治力を発揮したから実現したことで、一条天皇は彰子の立后には消極的だった。しかし、同年12月、定子は女児の出産時に亡くなり、后は彰子のみとなる。定子の死を嘆き悲しんでいる一条天皇を見て、道長は一条天皇が彰子に関心を向くように仕掛けを考えた。それは、式部を彰子の女房(後の世話役)とし、源氏物語を書か

せ、一条天皇に読ませることだつたと推察される。

寛弘3年(1006)、式部は彰子の女房として宮中に出仕する(諸説あり)。出仕したもの、宮廷生活になじめずに実家に帰ってしまう。「紫式部日記」には、式部が宮中では氣つまりで、よそよそしくしているとする記述がある。翌年の寛弘4年5月、式部は周囲の勧めもあり再び宮中に出仕し、他の女房とも徐々に打ち解け、彰子からも信頼される存在になる。一条天皇は源氏物語を人に読んで聞かせるほど気に入り、式部は執筆を続けていくことになる。

### 道長の政治工作

寛弘5年、彰子(道長の娘)は道長が待望していた外孫皇子・敦成(あつひら)親王を出産した。道長は敦成親王を早く天皇にしたい思惑があるので、将来は皇太



平等院鳳凰堂(宇治市)

藤原頼通の創建。本尊は阿弥陀如来坐像で、鳳凰堂に安置されている。

### 紫式部と藤原道長の略年表

長徳4年(998) 式部は藤原宣孝と結婚

長保元年(999) 式部は娘の賢子を出産

長保2年(1000) 道長の娘・彰子が一条天皇に入内

長保3年(1001) 式部の夫・宣孝が死去。源氏物語執筆開始か。

長保5年(1008) 「紫式部日記」の執筆開始。

寛弘7年(1010) この頃「宇治十帖」を執筆(諸説あり)

寛弘8年(1011) 一条天皇が崩御、三条天皇が即位

長和5年(1016) 三条天皇は譲位し、道長が摂政となる

万寿4年(1027) 道長が死去(55歳)

寛弘8年5月26日、道長は病床の一条天皇に知らせないまま譲位を発議した。一条天皇は敦康親王の立太子を望んだと推測されるが、道長の強大な政治力の前に公卿たちも異を唱えず、一条天皇は敦成の立太子を承認する。一方道長は、幼少

新造した一条院内裏に遷御し、譲位する。気配は無かつた。しかし、翌年の寛弘8年5月、一条天皇は病に倒れ、余命はわずかとなる事態が起つた。次の天皇は居貞親王に決まっているが、問題は次の皇太子を誰にするかであり、道長は幼年でも敦成親王を皇太子に据えようとした。しかし、一条天皇には定子との間に生まれた第1皇子の敦康親王がいる。平安時代になつてから中宮の第1皇子が皇太子にならなかつた例は無く、敦康親王が最有力であった。

寛弘7年(1010)11月、一条天皇は道長の栄華

寛弘8年(1011)6月、一条天皇は崩御し、三条天皇が即位する。道長は皇子の敦成親王を次の天皇に据える構想を抱いていたが、三条天皇は自己の皇統を存続させるため、自分の皇子も皇太子にする願望が強かつた。そのためには、妍子が皇子をもうければ、その皇子を皇太子にすることで道長も納得する。しかし、妍子は皇子を産めず、三条天皇と道長の関係は悪化する。長和3年(1014)、三条天皇は眼病を患い、政務や儀式の遂行にも支障が出るようになった。道長は病状が回復しない三条天皇に退位を迫り、三条天皇は圧力に屈し翌年に譲位。長和5年(1016)1月に敦成親王が後一條天皇として即位し、道長は摂政となり、その権力は万全のものとなつた。翌年の寛仁元年(1017)に道長は摂政を辞し、長

寛仁元年(1017) 道長が死去(55歳)

長元4年(1031) 紫式部が死去(諸説あり)

# 源氏物語ゆかりの地

源氏物語は平安中期に紫式部によって書かれた世界最古の長編小説です。全体で五十四帖からなり、一帖から四十一帖までは平安時代の貴族社会を舞台に、帝の子である光源氏の恋愛や榮華、苦悩を描きます。また、四十二帖から五十四帖は光源氏が亡くなつた後が舞台となっています。主な「源氏物語ゆかりの地」を紹介します。



石山寺(いしやまでら)

天平19年(747)に聖武天皇の勅願により、奈良東大寺の別当良弁僧正が創建した真言宗の大本山。平安時代には多くの貴族が参拝する「石山詣」が盛んになった。紫式部は源氏物語を石山参籠中に起筆したと伝えられ、本堂に「源氏の間」がある。

写真：石山寺の源氏の間 所在地：滋賀県大津市石山寺1-1-1

蘆山寺(ろざんじ)

天慶元年(938)、比叡山十八世貢主の元三大師良源が船岡山の南麓に創建した天台圓淨宗の本山。境内は紫式部の邸宅跡といわれ、昭和40年(1965)に考古・歴史学者の角田文衛氏の考証で紫式部邸宅跡の顯彰碑が建立される。

写真：蘆山寺の源氏庭 所在地：京都市上京区寺町通り広小路上る北之辺町3-97

夢浮橋(ゆめのうきはし)ひろば

夢浮橋は源氏物語の最終帖の巻名で、現実には存在しない。ひろば内には平成15年(2003)に紫式部像が建立された。源氏物語の最後の十帖が宇治を舞台にしていることから「宇治十帖」と呼ばれ、宇治川周辺には源氏物語の古跡が点在している。写真：夢浮橋ひろばの紫式部像 所在地：宇治市宇治橋西詰



石山寺(いしやまでら)



雲林院(うんりんいん)

淳和天皇(在位・823~833)の離宮・紫野院として造営された。その後、雲林院の敷地内に建立された大徳寺の塔頭となつた。源氏物語の十帖「賢木(さかき)」では光源氏が傷心し、雲林院に参籠している。近くに紫式部墓所がある。

写真：雲林院の山門

所在地：京都市北区紫野雲林院町23



涉成園(しおせいえん)

江戸時代に三代将軍・徳川家光から東本願寺の別邸として寄進された御殿。平安時代前期に左大臣・源融(みなもとのとおる)が當んだ「六条河原院」の旧蹟との説がある。

源融は、光源氏のモデルといわれている。

写真：涉成園の印月池と紅葉

所在地：京都市下京区下珠数屋町通間之町東入東玉水町



鞍馬寺(くらまでら)

奈良時代末期の宝亀元年(770)開基と伝えられる。平安時代には貴族の参詣や紫式部、清少納言など文流文学者が来山した。源氏物語では五帖「若紫」で、光源氏と紫の上の出会いが描かれている。

写真：鞍馬寺本殿

所在地：京都市左京区鞍馬本町1074番地



清涼寺(せいりょうじ)

光源氏が造営した「嵯峨の御堂」のモデルとされる寺院。源氏物語の十八帖「松風(まつかぜ)」の巻で描写されている。光源氏のモデルとされる源融が晩年隠棲した「棲霞觀」(棲霞寺)が前身の寺院。

写真：清涼寺の本堂

所在地：京都市右京区嵯峨駒込堂藤ノ木町46



大覺寺・旧嵯峨御所(だいかくじ・きゅうさがごしょ)

真言宗大覺寺派の大本山。平安時代初期に嵯峨天皇の離宮として建立したが、貞觀18年(876)に大覺寺となる。源氏物語の四十九帖「宿木(やどりぎ)」では、晩年の光源氏が出家し、この地で晩年を過ごしたことが描かれている。

写真：嵯峨御所趾の碑

所在地：京都市右京区嵯峨大沢町4

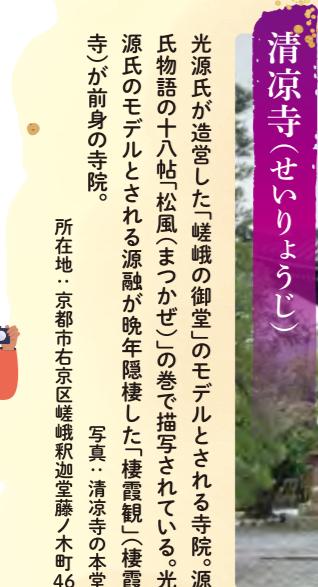


六道珍皇寺(ろくどうちんのうじ)

「この世とあの世の境界「六道の辻」ゆかりの寺院。開基は小野篁(おののたかむら)など諸説ある。平安時代の葬送地。鳥辺野が近くにある。

写真：六道の辻の石碑

所在地：京都市東山区松原通東大路西入ル



清涼寺(せいりょうじ)

光源氏が造営した「嵯峨の御堂」のモデルとされる寺院。源氏物語の十八帖「松風(まつかぜ)」の巻で描写されている。光源氏のモデルとされる源融が晩年隠棲した「棲霞觀」(棲霞寺)が前身の寺院。

写真：清涼寺の本堂

所在地：京都市右京区嵯峨駒込堂藤ノ木町46



# 光る君へ 主な登場人物

(枠内下段は演者)

## 天皇家の人たち

66代天皇  
一条天皇  
塙野瑛久

67代天皇  
三条天皇(居貢)  
木村達成

## 平安貴族の面々

陰陽師  
安倍晴明  
ユースケ・サンタマリア

道長の友人  
藤原公任  
町田啓太

安倍晴明の従者  
須麻流  
DAIKI

道長の後輩  
藤原行成  
渡辺大知

藤原定子の女房  
清少納言 / ききょう  
ファーストサマーウイカ

道長の友人  
藤原齊信  
金田哲

道長の同僚  
藤原実資  
秋山竜次

藤原彰子の女房  
赤染衛門  
凰稀かなめ

道長の義兄  
源俊賢  
本田大輔

道長のいとこ  
藤原顯光  
宮川一朗太

親子

兄弟・姉弟

道長の長兄  
藤原道隆  
井浦新

藤原道隆の嫡妻  
高階貴子  
板谷由夏

道長の次兄  
藤原道兼  
玉置玲央

藤原道隆の嫡男  
藤原伊周  
三浦翔平

道長の姉  
藤原詮子  
吉田羊

藤原道隆の次男  
藤原隆家  
竜星涼

道長のもう一人の妻  
源明子  
瀧内公美

一条天皇の中宮  
藤原定子  
高畑充希

道長の従者  
百舌彥  
本多力

一条天皇の第一皇子  
敦康親王  
片岡千之助

道長の異母兄  
藤原道綱  
上地雄輔

藤原道長  
柄本佑

道長の嫡妻  
源倫子  
黒木華

道長の姫  
藤原頼通  
渡邊圭祐

道長の長女  
藤原彰子  
見上愛

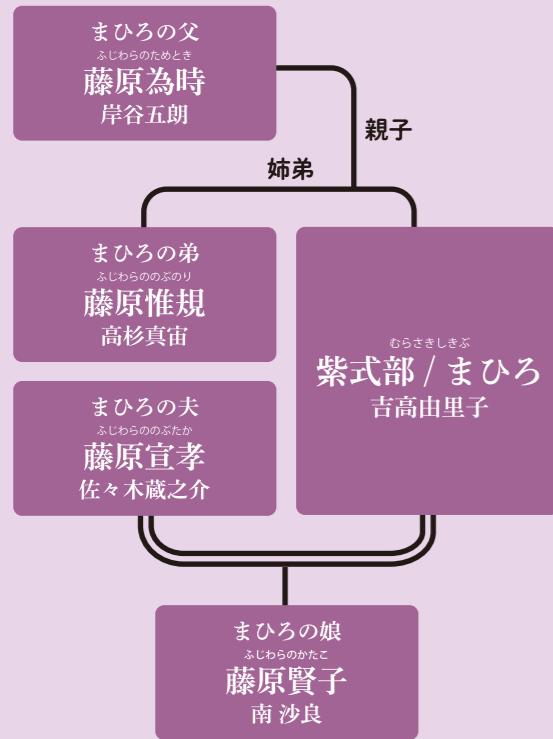
道長の嫡男  
藤原頼通  
渡邊圭祐

彰子の女房  
和泉式部  
泉里香

## 特別な絆

## 道長の一族と その周囲の人たち

## まひろの家族と その周囲の人たち



✓ 12歳で一条天皇に入内、翌年中宮となる。皇后となつた藤原定子の没後、定子が生んだ皇子・敦康親王の養母となり、自身も2人の皇子を産む。

✓ 天皇や貴族のために占いや祈祷、呪詛を行い、将来道長が台頭することを見抜き、道長に彰子の入内を進言するなど、政局に多大な影響を及ぼす。

✓ 藤原定子の女房で、兄と弟の不祥事で内裏を追われた定子を慰めるため「枕草子」を執筆(長保3年頃)。

✓ 代々の天皇や公卿から信頼が厚く、要職を歴任。64年間に及ぶ日記「小右記」を書き残す。

# 前橋の文学碑

## 広瀬川河畔に点在する多彩な詩碑

前橋市は「水と緑と詩（うた）のまち」のキャッチフレーズの通り、利根川や広瀬川が流れ、緑あふれる緑地・公園に加え、大きな特徴となつてゐる文学碑が市内に点在しています。特に広瀬川の河畔には、前橋市出身で口語自由詩を確立した詩人・萩原朔太郎をはじめ多くの詩人の詩碑が建立されております。平成5年（1993）には街なかの広瀬川沿いに前橋文学館が開設され、時代を超えて継承される近代詩の魅力を広く発信しております。



明治19年（1886）前橋市生まれ。大正6年（1917）に詩集『月に吠えさ』を刊行して日本に出版した詩集『青猫』で口語自由詩の確立者として不動的地位を得る。享年55歳。



**企画展 平井晚村生誕140年記念展**

会期 令和6年10月5日（土）～令和7年1月26日（日）

料金 現在を編集する

特別企画展 月刊「新潮」創刊120周年記念展

会期 令和6年6月22日（土）～令和7年1月12日（日）

料金 日本屈指の文芸誌「新潮」の軌跡

**「言葉と出逢う場所」前橋文学館**

日本近代詩史に大きな足跡を残した萩原朔太郎をはじめ平井晚村や高橋元吉、萩原恭次郎、伊藤信吉など、郷里の詩人・文学者の資料の常設展示に加え、現在は企画展「平井晚村生誕140年記念展」、「現在を編集する月刊『新潮』創刊120周年展」を開催中です。

TEL : 027-235-8011 FAX : 027-235-8512 URL : <https://www.maebashishibungakukan.jp>

期間中の関連イベント等の詳細はホームページをご覧ください。

開館時間：9時～17時（入館は30分前まで）休館日：水曜

TEL : 027-235-8011 FAX : 027-235-8512 URL : <https://www.maebashishibungakukan.jp>

料金 現在を編集する

**「言葉と出逢う場所」前橋文学館**

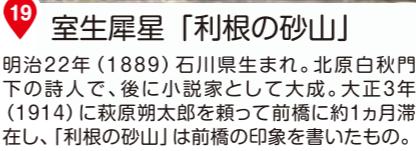
前橋文学館外観



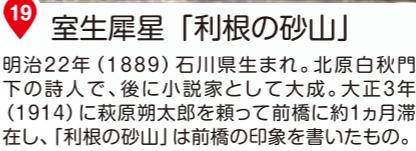
17 草野新平「春」  
明治36年（1903）福島県生まれ。詩、小説、隨筆など文学全般にわたり活躍。昭和3年（1928）から5年まで前橋市に居住。作品「春」は前橋在住時の印象を書いたもの。



4 萩原朔太郎「広瀬川」  
大正14年（1925）に出版された詩集『純情小曲集』のうち「郷土望郷詩」収載の一篇。



19 室生犀星「利根の砂山」  
明治22年（1889）石川県生まれ。北原白秋門下の詩人で、後に小説家として大成。大正3年（1914）に萩原朔太郎を頼って前橋に約1ヶ月滞在し、「利根の砂山」は前橋の印象を書いたもの。



23 谷川俊太郎「鷹繁山(部分)」  
昭和26年（1931）東京都生まれ。詩集の発表に加え、シナリオの執筆、絵本の仕事など幅広い活動を行つ。平成5年（1995）第1回萩原朔太郎賞受賞。



20 北原白秋「鶯べん」(散文)  
明治28年（1885）福島県生まれ。詩歌壇の巨匠で、「四季文学」を確立。大正4年（1915）に初めて前橋を訪れ、約1週間萩原朔太郎の家に滞在した。



9 広瀬川

# 竹内美絵

美術研究家 染谷滋

## 銀ペンの描線に託した感情の揺らぎ

### 榛名湖伝説に想を得た『轟』

今回は、企業メセナ群馬の昨年度芸術文化奨励賞を受賞した竹内美絵を紹介したい。今回のヤマト本社ギャラリーでの展覧会が初めての個展という新人作家である。まずは二〇二二年(令和三)制作の『轟』から見ていく。

右半分は黒地に白(銀)の描線、左半分は白地に黒で描かれた作品は、生き物のように見える線描が画面全体を大きく占めている。「蛇が首をもたげたようにも見える触手のようなものが画面上部で向かい合い、緊張感のある空間」が生じている。

本作は、二〇二〇年から二〇二二年にかけて滞在した榛名湖アーティストレジデンスでの作品で、背景の山は榛名富士である。具象的な形をほとんど描かない竹内には珍しく形の整った山である。

榛名湖には入水して龍になった姫の話や、腰元も入水して蟹になつたという話が伝わっていて、本作のテーマとなつたらしいが、それ以上詳しい説明は聞けなかつた。見る人の想像力にゆだねられている作品なのだろう。

本作は、二〇二〇年から二〇二二年にかけて滞在した榛名湖アーティストレジデンスでの作品で、背景の山は榛名富士である。具象的な形をほとんど描かない竹内には珍しく形の整った山である。

竹内が使う銀ペンは、革細工などでよく使われるものだが、絵画で使用するのは珍しい。早くから自分のスタイルを獲得したことが、評価された大きな理由だろう。

### 山形で画技を磨き経験を積む

二〇一六年(平成二八)春、本庄第一高校を卒業した竹内は、山形の東北芸術工科大学に入学した。美術部顧問の棚澤の出身校でもあつたし、独立展で知り合つた瀬島匠の勧めもあつた。瀬島は当時東北芸術工科大学の准教授でもあり、竹内は三年生まで実際に教わることになる。

東北芸術工科大学(芸工大)は一九九一年に創立した比較的新しい大学で、関東以北で唯一の芸術工科系大学でもあり、創立時から高い人気を誇つていて。本県でも芸工大出身のアーティストが増加傾向にあるようだ。

竹内は山形での四年間の大学生活中も、東京の独立展や郷里での県美術展には出品を続けた。その結果、独立展では二〇一九年に会友へ推举。県美術展では一般部門の最高賞である知事賞に続き、高崎市教育長賞を二年連続で受賞し、大学卒業後の二〇二〇年には県美術会準会員に推举されている。二〇二〇年の卒業制作では美術科賞も受賞した。

山形では画技を磨いただけでなく、様々な経験も積んだようだ。東日本大震災の被災地である石巻を中心とした「Reborn-Art Festival」に関わったり、芸工大が主催した「ジョウモン・アート」に出品したり、幾つかのグループ展も行っている。二〇二〇年の卒業制作では美術科賞も

### 長い旅路の始まり

芸工大を卒業した竹内は、二〇二〇年九月から高崎市が始めた榛名湖アーティストレジデンスに参加して、一年余りを榛名湖畔で制作に励んだ。

このアーティストレジデンスは、豊かな自然に囲まれた湖畔の宿に中長期間滞在し制作に励んでもらうことを目的に開設されたもので、一日千円という格安の料金も魅力的だが、滞在中のサポートも行き届いていてアーティストには画期的な施設だ。滞在者が榛名周辺の自然に触れて作品化することで、自ずと観光宣伝効果も上がつている。

榛名湖畔での日々は、竹内にとって今後の作品制作や生活設計を考える上でも有意義な時間だつたろうと推察される。高校生で早くも独自のスタイルを獲得した竹内だが、画家としての本当の力を培うのはこれからだ。黒地に銀ペンの描線という表現方法が、新鮮な魅力を見せていた時期は長続きはしない。『轟』で見せた白地に黒の描線との対比のように、新しい表現スタイルを広げてゆく可能性もあるかもしれない。版画などで試みている、色彩を取り込むことも今後の課題だ。

現在26歳。長い旅路の始まりである。そのスタートを見守つていただきたい。



「慈愛の雲」ミクストメディア(銅版画)2020



「轟」アクリル／銀ペン 2021

### 竹内美絵 MIE TAKEUCHI

1998 2月 高崎市に生まれる

2013 本庄第一高等学校入学

第64回群馬県美術展に初入選、以後毎年

82回独立展に初入選、以後毎年

2014 本庄第一高等学校卒業

2016 東北芸術工科大学芸術学部美術科入学

2017 第68回群馬県美術展で群馬県知事賞

2018 第69回群馬県美術展で高崎市教育長賞

2019 独立美術協会会員推举

2020 第70回群馬県美術展で再び高崎市教育長賞

2021 本庄第一高校の美術部では、毎年埼玉県美術展へ多くの入選者を出しているが、竹内が地元群馬県美術展に出品したのは当然の成り行きだろう。群馬県美術展には高校二年で初入選し、以後出品を続ける。

高校二年のとき、美術部顧問の棚澤寛に勧められ、歴史のある独立展に出品して見事入選を果たす。県展などは異なり高校生の入選は異例だったので、上毛新聞

でも大きく取り上げられた。

入選作は黒地に銀ペンで描く竹内独特的のスタイルで、『忠春期』と題された作品だった。初めて描いた百号のキャラクターで、今見ても端々らしい描線のうねりが美しい作品だ。バスで、今見ても端々らしい描線のうねりが美しい作品だ。以後、独立展への出品を続け、現在は会友になっている。

| 略歴   |                        |
|------|------------------------|
| 1998 | 2月 高崎市に生まれる            |
| 2013 | 本庄第一高等学校入学             |
| 2014 | 第64回群馬県美術展に初入選、以後毎年    |
| 2016 | 82回独立展に初入選、以後毎年        |
| 2017 | 本庄第一高等学校卒業             |
| 2018 | 第68回群馬県美術展で群馬県知事賞      |
| 2019 | 第69回群馬県美術展で高崎市教育長賞     |
| 2020 | 東北芸術工科大学芸術学部美術科洋画コース卒業 |
| 2021 | 独立美術協会会員推举             |
| 2022 | 第70回群馬県美術展で再び高崎市教育長賞   |
| 2023 | 群馬県美術会準会員推举            |
| 2024 | 第69回群馬県美術展で高崎市教育長賞     |
| 2021 | 独立春季新人選抜展奨励賞           |
| 2022 | 第8回山本鼎版画大賞展に入選         |
| 2023 | 高崎アートプロジェクトに出品         |
| 2024 | 第89回独立展新人賞             |
| 2021 | 独立春季新人選抜展で再び奨励賞        |
| 2022 | 第8回独立展新人賞              |
| 2023 | 高崎アートプロジェクトに出品         |
| 2024 | 第73回麓原会で麓原賞、会友推举       |
| 2021 | 企業メセナ群馬芸術文化奨励賞         |
| 2022 | (株)ヤマト本社ギャラリーで初個展      |
| 2023 | 高崎市美術館「美術が奏でる音楽」に出品    |
| 2024 | 現在、NPO法人 art sum 主宰    |

# 伊勢塚古墳

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 専門員

迫田睦生

## 美しい模様積みの横穴式石室

群馬県は東日本でも有数の古墳王国であり、埋葬施設を見学できる古墳も県内に多数存在しています。古墳時代が始まったころの埋葬施設は古墳の墳丘頂に構築した竪穴式石室でした。古墳時代の中頃になると、古墳の墳丘に対して横方向に入口を持つ横穴式石室が造られるようになりました。群馬県では安中市の築瀬二子塚古墳（6世紀初頭）が最初に横穴式石室が造られた古墳です。横穴式石室は入り口を閉じた後も追加の埋葬ができるので、竪穴式石室から横穴式石室への変化は古墳時代の人々の死生觀も変えるような大きな変化でした。

横穴式石室は地域によっていろいろな

形態があり、平面形には長方形のもの、胴張り状のもの、部屋がいくつもあるものなどが、石材には川原石や角閃石安山岩、砂岩を使っているものなどがあります。石材の使用方法も様々で大きな石材をそのまま使っているものや、加工を施して使っている石室もあります。今回ご紹介する伊勢塚古墳も非常に特徴的な石室を見る事ができます。

伊勢塚古墳は藤岡市上落合にあり、古墳の北側を流れる鏑川の河岸段丘上に造られた古墳です。大型の円筒埴輪が出土した七興山古墳（国指定史跡）、豊富な副葬品が出土した白石稻荷山古墳（国指定史跡）、単龍環頭大刀が出土した皇子塚古墳（県指定史跡）などがあ

る白石古墳群内の最北端に位置しています。

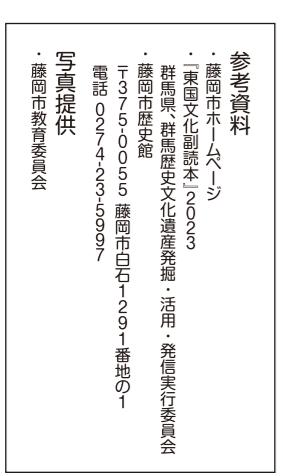
伊勢塚古墳は直径約27m、高さ6mの円墳もしくは不正形の八角形墳で、時期は6世紀末頃と考えられています。昭和62年から3回にわたり調査されました。出土した遺物は少なく、すべて破片で全体が分かるものはありませんが、円筒埴輪、人物埴輪、盾形埴輪、須恵器などが出土しています。葺石は川原石で、最下段の石（根石）には大きめの石を配置し、それよりも上には小ぶりの石を使用し、きれいに積み上げられています。

伊勢塚古墳の最も特徴的なところは横穴式石室です。入り口は墳丘の南側にあります。石室は遺体を安置する玄室とそこに至る通路としての羨道、さらにその間の玄門で構成されています。羨道の天井は二分の一ほどが壊れていますが、壁面は残存しており、片岩を利用しています。羨道を進み玄門をくぐると玄室へとつながっています。玄室の側壁は入口と奥が狭く、真ん中が広い胴張り状の形状をしています。玄室の平面形は入口岩を小口積みにして、所々に大きめの石を配置した「飛白模様」にしています。この特徴的な石材の積み方を「模様積み」と呼んでおり、石室構築の際、計画的に

石を配置していくことが分かります。天井部分は徐々に内側にせり出していくドーム状になっています。玄室に立ってみると胴張り状の平面形とドーム状の天井構造のおかげで意外と広く感じられます。奥壁は大きな牛伏砂岩を三段積んで壁面を構築しています。

この「模様積み」は藤岡市周辺と埼玉県児玉郡付近で6世紀から7世紀にかけて確認できる特徴的な積み方です。その中でも伊勢塚古墳は藤岡市内で最大規模の石室をもっています。葺石や石室の状況から、古墳時代の人々が石材を選び、巧みな技術によって美しい伊勢塚古墳を建築したことが分かります。

伊勢塚古墳は狭い道を抜けていき古墳付近に駐車することが可能で、石室内も見ることができます。近くには七興山古墳、白石稻荷山古墳があり、車で3分ほどのところには藤岡歴史館もあり、藤岡市の豊富な歴史資料を見学することができます。



# 嬬恋村ウダラ沢小水力発電事業を実施

嬬恋村と(株)ヤマトは、嬬恋村ウダラ沢小水力発電事業の契約を締結し、2024年5月31日に、嬬恋村役場で契約締結に関する記者会見を開きました。記者会見には、嬬恋村からは熊川村長、黒岩副村長、熊川未来創造課長が出席。(株)ヤマトからは町田社長、吉井副社長、石井執行役員地域連携推進部長が出席し、日本経済新聞、朝日新聞、上毛新聞の記者が取材を行いました。

同事業は持続可能な社会づくりが目的で、当社が嬬恋村に小水力発電施設を寄附し、嬬恋村は20年間当社に同施設を無償で貸与する「負担付きの寄附」と呼ばれる仕組みを使っています。当社は売電収入で投資額を回収し、売電収入の一部を嬬恋村に納め、村に貢献します。また、水力発電事業により温室効果ガスの排出を削減し、気候変動対策に寄与します。町田社長は記者会見冒頭のあいさつで、「持続可能な開発目標(SDGs)に沿った地域貢献を通じて、企業の社会的責任を果たしたい」と述べました。



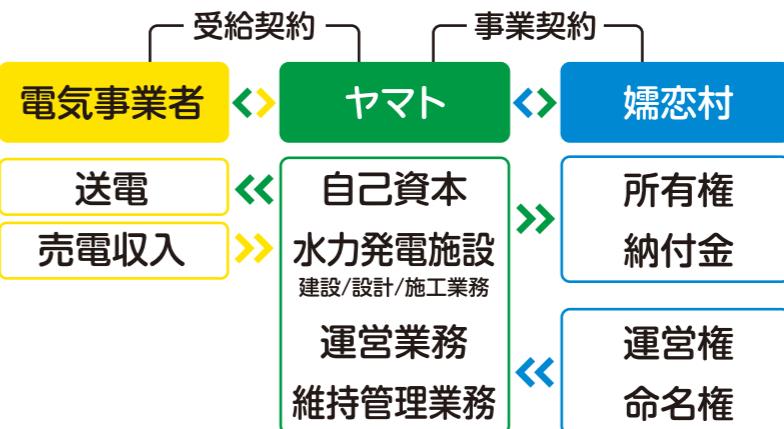
## 小水力発電とは

水力発電のなかでも発電出力1000キロワット以下のものが小水力発電とされ、低落差・小水量でも発電が可能なため、山間部の小河川や既存の農業用水路など、これまで活用されていなかったエネルギーの活用が期待されます。

## 概要 嬌恋村ウダラ沢小水力発電事業

### 事業手法「負担付きの寄附」(地方自治法第96条1.九)

- (PPP) 官民連携の手法のひとつで、PFI・BTO方式 + コンセッション方式に似た手法です。
- (横浜市) 横浜スタジアム、(三鷹市) スタジオジブリ等で実績があります。



\* 事業費および納付金は非公表とします。

\* 「負担付きの寄附」による小水力発電事業は日本初の可能性が極めて高いです。

### 今後の予定

- |               |          |
|---------------|----------|
| ・再エネ発電事業の認定申請 | 2024年 8月 |
| ・工事開始         | 2024年12月 |
| ・工事完成(発電開始)   | 2026年 9月 |

### 再エネ発電事業計画

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 実施場所  | 群馬県吾妻郡嬬恋村大笠               |
| 認定申請者 | ヤマト                       |
| 電源種   | 小水力発電                     |
| 設置形態  | 流れ込み式(水路式)                |
| 使用水量  | 0.380 m³/s (最大)           |
| 発電機出力 | 156 kW (最大)               |
| 有効落差  | 55.2 m (平均)               |
| 年間発電量 | 1,257,030 kW (最大) 約300世帯分 |

外国人観光客の増加で注目される。

嬬恋村は昨年に比べると訪日外国人が4.4倍増え、増加率は全国で6位と上位でした。軽井沢から足を延ばし、自然景観を楽しむ旅行者が増えているとのことです。

移動データ事業などを手がける「ナビタイム・ジャパン」の訪日客の滞在増加状況調査結果。2023年3~5月と2024年3~5月を比較。上毛新聞ニュースサイトに掲載



中居屋重兵衛、横浜開港の功労者、そして生糸貿易の先駆者。

中居屋重兵衛は安政6年(1859)に横浜が開港した際に、出身地の嬬恋村から横浜に進出し、黎明期の生糸貿易を担つた貿易商です。その取引量は全輸出生糸の過半を超えた幕末の生糸貿易は重兵衛によって支えられました。現在の横浜市中区にあった重兵衛の店には、主要各藩の物産係や全国の商人が生糸を持ち込み、多くの外国人が生糸の買付けに訪れたということです。

